



日建産業(横浜市緑区)
工事部 古川 直子さん
チャレンジ精神で建設業界に

前職はIT関連会社の営業事務。建設業は全く未経験の分野だったが「新しいことに挑戦したい」と迷わず飛び込んだ。「会社が自宅から近いことも決め手でした」と笑う。
入社後は工事書類の整理や積算に従事。「少しでも現場の負担を減らしたい」との思いで取り組んだ。任された仕事を一つ一つこなしていくうちに「仕事の幅を広げたい」と施工管理技士の資格を取得して、同社初の女性技術者になった。
現場では近隣住民への配慮を欠かさず、日頃のあいさつを通じて工事内容や進捗を丁寧に説明することを心掛けている。「現場もとても親切な方々ばかりなので安心して仕事ができます」。柔らかな人柄と相まって良好な人間関係を築いているようだ。
若い入職者が増えることを願う。「働いてみて世間のイメージにはない魅力が建設業界にはあることに気がきました。職業体験などの機会を通じて学生たちに建設業の面白さを伝えていきたいです」。

建設現場で輝く女性たち

働き続けられる産業へ

国土交通省、日本建設業連合会などの建設業5団体、女性定着の推進活動などを行う団体で組織する建設業女性活躍推進ネットワークは、「女性の定着促進に向けた建設業行動計画」を2020年1月16日に策定した。女性の就業継続の実現を目指し、出産・育児で職場を離れた女性が職場復帰できる環境を整備するため、5年間で官民が取り組む具体策を示したものだ。
官民が一丸となり、こうした取り組みを強化していくことが女性に選ばれる産業への確かな道だ。建設現場で女性が輝くためには何が必要か。県内企業の女性5人に業界の魅力や働きがいなどを聞いた。

横浜建設(横浜市栄区)
井上 智香さん

資格を取得し、現場を任せられるように

2020年度の新入社員として横浜建設に入社した。大学では農業土木を専攻し、測量士補や技術士補の資格を取得。「これまで学んだことを生かすために建設業界を志しました」と業界に入ったきっかけを語る。
中学・高校の6年間を横浜市で過ごした。「他の都道府県に住んでいたこともありますが、就職は絶対横浜でしたいと考えていました」と住み慣れた街への愛着を語る。仕事の魅力についても「地域に密着した企業です。業務を通じて大好きな横浜の街に貢献できることです」と話す。
現場では監督補佐として主に測量や完成写真の撮影などを担当している。新年度から2級土木施工管理技士の資格取得に向けた勉強も始める予定だ。「将来は1級土木施工管理技士の資格を取得し、一人で現場を任せられるようになります」と意欲を見せる。



I&I(川崎市川崎区)
齊藤 まひるさん

現場・事務・設計こなす“なんでも屋、

「麻生スポーツセンター外壁改修その他工事」で現場責任者として汗を流している。グループ企業の「イマムラ」に事務職として入社したため、「当時は現場に出るとは思っていなかった」が、「今は事務も設計もしています」と笑みをこぼす。オールラウンドに仕事をこなす“なんでも屋”だ。
マンションの改修など居ながら施工も多いため、安全はもちろん、「常に居住者目線に立った丁寧な仕事」を心掛けている。整理整頓も欠かさない。
社では「女性だから、男性だからというのは一切ありません」と話し、事務職の女性社員たちも「現場を見たり、お客さまとの打ち合わせに参加したりする」など、さまざまな経験が積めるという。「なんでも挑戦させてもらえますし、責任のある仕事を任せてもらえます」と日々、充実している。
資格取得に向けては学費の全額援助も、社のバックアップを受けて、当面の目標は1級建築施工管理技士資格を取得することだ。



ヨコソー(横須賀市)
安本 千慧子さん
住民とのふれあいが励みに

7歳の時、自宅の建て替えをきっかけに建築に興味を持つ。「新しい家が出来上がっていく過程を見ることが楽しく、毎日現場に足を運んでいました」と笑う。今では家具を自分で作り、住んでいるマンションの内装設計も自ら手掛ける根っからの建築女子だ。
内装関係の2社を経て、2年前にマンションの大規模修繕を手掛ける同社に入社。現場では品質や工程、コスト面の管理と住民対応などを担当する。
「事務所まで顔を出してくれたり、工事完了後に感謝の言葉をいただけることあるので、住民の皆さんとのふれあいが励みになります」と仕事のやりがいについて語る。
主婦が洗濯物を干す時間を作るために日中の工事の時間を調整するなど、現場に女性目線を取り入れることにも意欲的だ。「住民の皆さんにとって工事が苦にならないよう工夫し、どんな相談にも対応できる環境を作りたいです」と力を込める。

春峰園(横浜市金沢区)
加藤 真歩さん
「夢は樹木医!」

幼少のころから草花が好きで、自宅の庭でよく遊び、野草を覚えた。「きっと物心ついたころから草花や樹木に魅せられていたのだと思います」。職業として意識し始めたのは、「うえきやのくまさん」という絵本と樹木医という職業を知った「13歳のハローワーク(村上龍著)」の2冊の本との出会い。さらに造園業界へ進むきっかけは、ディズニーランドの植栽。「植栽が世界観の演出に大きく影響していること」に気づいたことだ。「こんなにも美しい世界だったのか」と魅力的な空間に衝撃を受けた。出会いの連続で、いつしか植物のある空間全体を取り扱う造園に引き込まれていった。
大学卒業後、2015年に入社。6年目を迎えた現在は、工事の現場代理人や公園指定管理の現場責任者など、さまざまな仕事を任されている。「私の中には植物好き=樹木医がインプットされている」。7年の現場経験を積んで、夢である樹木医を目指す。

